

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：74305

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24320135

研究課題名(和文)近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Study on the Transformation of Local Communities and People's Movement in Modern Japan

研究代表者

廣川 禎秀(広川禎秀)(Hirokawa, Tadahide)

公益社団法人部落問題研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：30047237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：近現代日本の地域社会構造の長期的変貌を、近世も射程に入れて理論的実証的に究明するとともに、それとの関連で近代日本の社会運動の展開過程を分析し、近現代史、地域史、社会運動史の方法的検討も進めた。

その視点から、近代日本の部落問題の展開過程を、史料学的研究と関連させつつ、通時的総合的に明らかにした。

また、都市大阪・京都、泉州、地方都市・農村の地域社会構造と下層社会(民衆社会)の関連を通時的多面的に解明した。

研究成果の概要(英文)：We have made a theoretical and positive research on the long term structural transformation of local communities in modern and contemporary Japan. We have also analyzed the developing process of social movement in modern Japan and made the methodological examination of the histories of modern and contemporary times, of local communities and of social movement.

We have clarified the proceeding process of "Buraku Problem" in modern Japan through field work chronologically and comprehensively. We have also clarified chronologically the relation between big cities Osaka, Kyoto and local city, Senshu and the relation between rural communities and lower class societies from various aspects.

研究分野：日本近現代史

キーワード：近代日本 地域社会構造 民衆運動 地域史 社会運動史 近世史 部落問題 下層社会

1. 研究開始当初の背景

(1) 地域社会史研究と民衆運動史研究の進展。

日本近世史研究では、本研究組織に属する近世史研究者らによって身分社会史研究、身分的周縁論、都市史・地域史研究など多彩に進められて、成果が蓄積されていた。

近代日本の地域社会史研究では、鈴木良による「天皇制的地域支配論」、ついで「地域支配構造論」の提起があり、そうした方法論的提起を受け止めた地域社会史研究が、廣川禎秀（廣川禎秀）や竹永三男らによって進展していた。

「地域支配構造論」の方法が戦後日本の民衆運動史でも受け止められ、高度成長期以降の古い地域支配構造の崩壊、都市・農村の社会構造の変動を重視した研究が、廣川禎秀（廣川禎秀）を中心に進められ、その成果が廣川禎秀（廣川禎秀）ほか編『戦後社会運動史論 高度成長期を中心に』（2012年3月）などとして発表されていた。

(2) 部落問題をめぐる豊富な史料的条件と研究の進展。

公益社団法人部落問題研究所が所蔵する史料群として、戦前・戦後の融和運動などに関与した三好伊平次の旧蔵史料「三好文庫」と、水平運動の活動家から寄贈された文書群「水平文庫」、及び戦前・戦後の部落解放運動に参加した北原泰作の旧蔵史料「北原文庫」などがあり、これらを使用した研究が可能であった。

既述の地域社会史研究・民衆運動史研究の進展と史料的条件のもとで、「部落問題の解決過程」を具体的に明らかにする研究も、廣川禎秀（廣川禎秀）や鈴木良らを中心に進められ、部落問題研究所編・刊『部落問題解決過程の研究 第一巻 歴史篇』（2010年）の発行など、成果をあげつつあった。

(3) 以上の研究の進展と史料的条件を背景・前提として本研究が開始されることとなった。

2. 研究の目的

(1) 近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開を総合的に、また前近代（近世）から現代までを射程に入れて通時的に、共同研究によって遂行する。具体的には、「基礎的・理論的問題の究明」と、「近世・近代・現代を通じた具体的・地域的な実証分析」の二つの側面から研究を進める。

(2) 基礎的・理論的問題の究明。

都市開発・地域開発と地域社会構造の関連に関する研究を進める。

地域社会構造と民衆社会（下層社会）の関

連に関する研究を進める。

生存をめぐる諸問題と救済慣行、保健衛生、社会政策に関する研究を進める。

部落問題とその史料に関する研究を進める。

(3) 近世・近代・現代を通じた具体的・地域的な実証分析。

都市大阪及び京都についての通時代的研究を進める。

泉州地域についての通時代的研究を進める。

地方都市・農村に関する通時代的研究を進める。

(4) 以上の研究を総括して、近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開を総合的・実証的に明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 連携研究者の参加・協力を得て、研究分担者鈴木良、竹永三男の補佐もうけながら、研究代表者廣川禎秀（廣川禎秀）を中心に研究を進める。（ただし鈴木良は2014年度中に死亡したため研究分担者から削除した。）

(2) 研究組織内に「都市開発・地域開発と地域社会構造の関連に関する研究」、「地域社会構造と民衆社会（下層社会）の関連に関する研究」、「生存をめぐる諸問題と救済慣行、保健衛生、社会政策に関する研究」、「都市大阪及び京都についての通時代的研究」、「泉州地域についての通時代的研究」、「地方都市・農村に関する通時代的研究」の七つの課題に即した班を設置し、研究代表者・研究分担者・連携研究者はそれらのうちいずれか一つ以上の班（共同研究）に参加しながら、分担するテーマについての研究を進める。

(3) 七つの班（共同研究）の成果を、全体の共同研究会において共有する。

(4) 以上を通じて得られた研究成果の一部を、その都度、部落問題研究者全国集会などの公開研究会や、部落問題研究所紀要『部落問題研究』誌への論文掲載などのかたちで外部にも公開し、批判を仰ぐことでさらに研究を発展させる。

(5) 以上の研究推進のための実務補助や関係史料・図書調査・整理などにあたる研究協力者として、若手研究者の参加・協力も得る。

4. 研究成果

(1) 「都市開発・地域開発と地域社会構造の関連に関する研究」、「地域社会構造と民衆社

会（下層社会）の関連に関する研究」、「生存をめぐる諸問題と救済慣行、保健衛生、社会政策に関する研究」、「都市大阪及び京都についての通時代的研究」、「泉州地域についての通時代的研究」、「地方都市・農村に関する通時代的研究」の七つの課題に即した共同研究、及び各人の分担テーマ研究。

都市開発・地域開発と地域社会構造の関連に関する研究。

坂井田徹（森下徹）は、大阪府和泉市域における高度成長期の宅地開発をめぐる地域住民運動などの研究を進め、第 51 回部落問題研究者全国集会においてその成果を口頭発表した（後掲 5 学会発表）。

佐々木隆爾は、地域開発と民衆運動の関連を世界史的視野から検討するとともに、東京世田谷区における都市開発と民衆運動の関連の研究を進めるなかで得られた成果ももたにして、廣川禎秀（廣川禎秀）らの編著『戦後社会運動史論』の書評を発表した（同 5 雑誌論文）。また佐々木隆爾の研究の意義については、佐々木からの聴き取りを廣川禎秀（廣川禎秀）と坂井田徹（森下徹）、西尾泰広らが言い、その成果を『部落問題研究』誌に発表した（同 5 雑誌論文）。

地域社会構造と民衆社会（下層社会）の関連に関する研究。

佐賀朝は、民衆社会（下層社会）とも密接なかかわりをもつ「遊廓社会」についての研究を進め、『部落問題研究』誌に論文でその成果を公表した（後掲 5 雑誌論文）。

森下徹は、長州萩城下町などに即して下層社会研究を進め、その成果を第 52 回部落問題研究者全国集会において口頭発表し（同 5 学会発表）雑誌論文（同雑誌論文）として発表した。

生存をめぐる諸問題と救済慣行、保健衛生、社会政策に関する研究。

竹永三男は、近代日本における「行き倒れ」とその救済をめぐる社会関係や政策などについての検討を進め、『部落問題研究』誌（後掲 5 雑誌論文）などでその成果を公表した。

近世における生存をめぐる諸問題と救済慣行などについては、藤本清二郎が城下町和歌山に即した研究成果を第 52 回部落問題研究者全国集会において口頭発表し（同 5 学会発表）雑誌論文（同 5 雑誌論文）として発表したほか、町田哲が徳島藩領における牛馬皮の流通に即した研究成果を『部落問題研究』誌に発表した（同雑誌論文）。

戦後の地域社会における保健衛生をめぐる研究については、鬼嶋淳が 1950 年代の埼玉県における農村医療運動の展開を地域社会との関連においてとらえる研究を進め、その成果を第 50 回部落問題研究者全国集会において口頭発表し（同学会発表）雑誌論文（同 5 雑誌論文）として発表した。

部落問題とその史料に関する研究。

廣川禎秀（廣川禎秀）を中心に、部落問題とその史料に関する研究を共同で進めた。その成果は、廣川禎秀（廣川禎秀）が雑誌論文（後掲 5 雑誌論文）を発表したほか、「北原文書」の主要史料の紹介・解題として二冊の図書『部落問題解決過程の研究 第三巻 資料篇』『部落問題解決過程の研究 第四巻 資料篇』（同 5 図書）また戦後（1945 年～2000 年）の「部落問題解決過程」年表として一冊の図書に（同 5 図書）それぞれまとめられて発表された。

さらに梅本哲世は、戦後の部落問題解決過程における住宅政策に着目して研究を進め、論文「『高度成長』期における住宅政策と同和対策事業」（同 5 図書）を発表したほか、「部落問題解決過程の到達点と課題」についての検討を進めて第 54 回部落問題研究者全国集会において口頭発表し（同学会発表）雑誌論文（同雑誌論文）として発表した。

都市大阪・京都についての通時代的研究。

都市大阪については、廣川禎秀（廣川禎秀）を中心に飯田直樹らが研究を推進し、塚田孝が近世大坂の非人についての検討を進めて、その成果を『部落問題研究』誌に発表した（後掲 5 雑誌論文）。

また鈴木良は、近代都市大阪に即して、その地域支配構造の発展を検討して、その成果を第 50 回部落問題研究者全国集会において口頭発表し（同学会発表）雑誌論文（同雑誌論文）として発表した。

さらに京都に関しては、竹末勤が、戦後期を中心に研究を進めた。

泉州地域についての通時代的研究。

廣川禎秀（廣川禎秀）を中心に島田克彦らが研究を推進し、に記した坂井田徹（森下徹）の口頭発表などの成果をあげた。

地方都市・農村に関する通時代的研究。

鬼嶋淳が、に記した口頭発表及び雑誌論文で埼玉県の農村地域に即した研究成果を発表したほか、尾川昌法が高知県域についての研究を進めた。

(2)以上の共同研究の推進、及び各人の分担テーマ研究の推進による成果を研究組織で共有するなかで、近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開を総合的に、また前近代（近世）から現代までを射程に入れて通時的に捉える視点も深まり、近現代史研究や地域史研究、社会運動史研究など、歴史学の根本的な方法にかかわる検討も進められ、以下のような成果として発表された。

廣川禎秀（廣川禎秀）は、(1) に記した佐々木隆爾による書評をふまえて、戦後社会運動史の方法と課題を再考する論文を『部落

問題研究』誌に発表した(後掲5雑誌論文)ほか、自治体史の現代史叙述に関する論文も『部落問題研究』誌に発表した(同雑誌論文)。

竹永三男は、松尾尊兌の大正デモクラシー史論を現代の民主主義などとの関連で検討し、その成果を日本史研究会例会で口頭発表し(同5学会発表)、雑誌論文として発表した(同雑誌論文)。

塚田孝は、鈴木良の近代史研究の成果と課題を地域史研究の立場から検討し、その成果を『部落問題研究』誌に発表した(同雑誌論文)。

(3)本研究は、以上のような成果をおさめて、その成果を、次項に掲げた発表論文等により広く公開したが、さらに2017年度に刊行する部落問題研究所紀要『部落問題研究』誌等でも発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計48件)

梅本哲世、部落問題解決過程の到達点と課題 基調報告 『部落問題解決過程の研究』全五巻をめぐって、部落問題研究、査読有、221輯、2017年、4-17頁

塚田孝、鈴木良氏の近代史研究に学ぶ 地域史研究の立場から、部落問題研究、査読有、219輯、2016年、2-26頁

竹永三男、二一世紀の松尾史学 松尾尊兌氏の大正デモクラシー史論と現代の民主主義、日本史研究、査読有、648号、2016年、3-35頁

廣川禎秀(広川禎秀)、『新修彦根市史第四巻通史編現代』を読む 現代の焚書坑儒を越えて刊行された注目の書、部落問題研究、査読有、215輯、2016年、54-66頁

藤本清二郎、城下町の賑わい・没落と卑賤視 物売りと物貰い、部落問題研究、査読有、213輯、2015年、40-57頁

森下徹、都市下層社会 から考える地方城下町、部落問題研究、査読有、213輯、2015年、58-84頁

廣川禎秀(広川禎秀)・佐々木隆爾・坂井田徹(森下徹)・西尾泰広、佐々木隆爾氏の近現代史研究(2)、部落問題研究、査読有、210輯、2015年、2-71頁

廣川禎秀(広川禎秀)・佐々木隆爾・坂井田徹(森下徹)・西尾泰広、佐々木隆爾氏の近現代史研究(1)、部落問題研究、査読有、208輯、2014年、2-50頁

廣川禎秀(広川禎秀)、戦後社会運動史の方法と課題・再考 佐々木隆爾氏の『戦後社会運動史論』への書評に応える、部落問題研究、査読有、208輯、2014年、51-64頁

竹永三男、「行旅病人及行旅死亡人取扱法」施行後の東京府における「行き倒れ」とその対応行政に関する基礎的検討、部落問題研究、査読有、207輯、2014年、36-103頁

町田哲、近世後期徳島藩における牛馬皮の流通と取締、部落問題研究、査読有、206輯、2013年、2-48頁

塚田孝、近世大坂の非人と人別帳、部落問題研究、査読有、206輯、2013年、49-71頁

佐々木隆爾、書評 広川禎秀・山田敬男編『戦後社会運動史論 高度成長期を中心に』、部落問題研究、査読有、206輯、2013年、72-93頁

鈴木良、地域支配構造の発展、部落問題研究、査読有、205輯、2013年、4-29頁

鬼嶋淳、一九五〇年代における農村医療運動の展開と地域社会 埼玉県大井病院を中心に、部落問題研究、査読有、205輯、2013年、124-156頁

佐賀朝、居留地付き遊廓の社会構造、部落問題研究、査読有、203輯、2013年、2-47頁

竹永三男、近現代の「行き倒れ」(行旅病人・行旅死亡人)の実態とその救護・取扱からみた日本社会の特質、部落問題研究、査読有、201輯、2012年、96-139頁

廣川禎秀(広川禎秀)、部落問題研究の新段階、部落問題研究、査読有、200輯、2012年、2-13頁

[学会発表](計16件)

梅本哲世、部落問題解決過程の到達点と課題 基調報告 『部落問題解決過程の研究』全五巻をめぐって、第54回部落問題研究者全国集会 全体会、2016年10月22日、同志社女子大学(京都市上京区)

竹永三男、21世紀の松尾史学 松尾尊兌氏の大正デモクラシー史論と現代の民主主義、日本史研究会2015年5月例会、2015年

5月17日、機関紙会館（京都市上京区）

藤本清二郎、城下町の賑わい・没落と卑賤視 物売りと物貰い、第52回部落問題研究者全国集会 歴史 分科会、2014年10月26日、同志社女子大学（京都市上京区）

森下徹、都市下層社会 から考える地方城下町、第52回部落問題研究者全国集会 歴史 分科会、2014年10月26日、同志社女子大学（京都市上京区）

坂井田徹（森下徹）、高度成長期の地域開発と社会運動 大阪府和泉市信太山丘陵の宅地開発をめぐる、第51回部落問題研究者全国集会 歴史 分科会、2013年10月27日、同志社女子大学（京都市上京区）

鬼嶋淳、1950年代における農村医療運動の展開と地域社会 埼玉県大井医院を中心に、第50回部落問題研究者全国集会 歴史 分科会、2012年10月28日、同志社女子大学（京都市上京区）

鈴木良、地域支配構造の発展、第50回部落問題研究者全国集会 全体会、2012年10月27日、同志社女子大学（京都市上京区）

〔図書〕（計11件）

廣川禎秀（広川禎秀）・梅本哲世・尾川昌法・竹末勤・西尾泰広・鈴木良・他4名、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第五巻 年表篇、2016年、657頁

廣川禎秀（広川禎秀）・鈴木良・西尾泰広、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第四巻 資料篇、2015年、465頁

梅本哲世・他3名、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第三巻 現状・理論篇、2014年、157頁（梅本：123 - 152頁）

廣川禎秀（広川禎秀）・鈴木良・西尾泰広、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第三巻 資料篇、2014年、255頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣川 禎秀（HIROKAWA TADAHIDE）

（通称名・広川 禎秀）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：30047237

(2) 研究分担者

鈴木 良（SUZUKI RYO）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：10072703

（2015年2月16日死亡により削除）

竹永 三男（TAKENAGA MITSUWO）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：90144683

(3) 連携研究者

飯田 直樹（IIDA NAOKI）

公益財団法人大阪市博物館協会・学芸員

研究者番号：10332404

梅本 哲世（UMEMOTO TETSUYO）

桃山学院大学・経済学部・教授

研究者番号：00258774

尾川 昌法（OGAWA MASANORI）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：20072704

鬼嶋 淳（KIJIMA ATSUSHI）

佐賀大学・教育学部・准教授

研究者番号：60409612

佐賀 朝（SAGA ASHITA）

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

坂井田 徹（SAKAIDA TORU）

（通称名・森下 徹）（MORISHITA TORU）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：40529921

佐々木 隆爾（SASAKI RYUJI）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：10086944

島田 克彦（SHIMADA KATSUHIKO）

桃山学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：50382023

竹末 勤（TAKESUE TSUTOMU）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：30332224

塚田 孝（TSUKADA TAKASHI）

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60126125

西尾 泰広（NISHIO YASUHIRO）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：70469641

藤本清二郎（FUJIMOTO SEIJIRO）

公益社団法人部落問題研究所・研究員

研究者番号：40127428

町田 哲（MACHIDA TETSU）

鳴門教育大学・学校教育研究科・准教授

研究者番号：60380135

森下 徹（MORISHITA TORU）

山口大学教育学部・教授
研究者番号：90263748

(4)研究協力者

富山 仁貴 (TOMIYAMA NORITAKA)